

Veritas™ Usage Insights for NetBackup スタートガイド

Veritas™ Usage Insights スタートガイド

最終更新日: 2021-02-02

法的通知と登録商標

Copyright © 2021 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19 「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202 「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

Veritas™ Usage Insights for NetBackup	5
Veritas NetInsights コンソールについて	5
Veritas Usage Insights について	6
データ保護、プライバシー、およびセキュリティ基準	10
収集されたデータの種類とデータの収集イベント	12
遠隔測定データのローカルリポジトリ	14
Veritas Usage Insights の有効化	14
カスタマ登録キーに関する重要な情報	22
Veritas へのデータ伝送	22
遠隔測定情報の手動アップロード	23
NetBackup マスターサーバーとメディアサーバーの CALLHOME_PROXY_SERVER オプション	24
よく寄せられる質問	25
詳細情報	41

Veritas™ Usage Insights for NetBackup

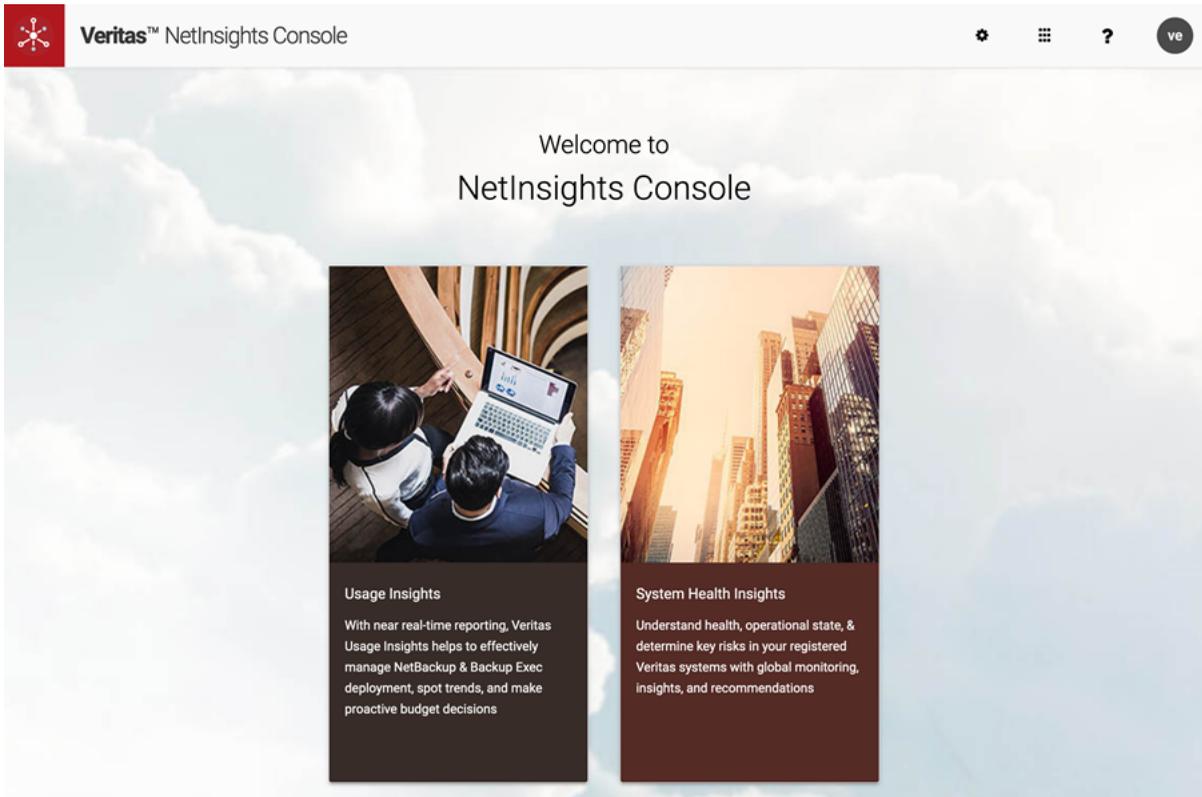
Veritas NetInsights コンソールについて

Veritas NetInsights コンソールは、使用状況とライセンスの資格を管理するのに役立つ、ベリタス製品および機能の SaaS ベースの統合プラットフォームです。このプラットフォームは、製品遠隔測定とベリタスのサポートデータを活用して、ソフトウェアとアプライアンスに関する有益な情報を単一のインターフェースで提供し、複数の製品を切り替える必要をなくして一体感のあるエクスペリエンスを実現します。

Veritas NetInsights コンソールに接続するには、次の URL を使用します。

<https://netinsights.veritas.com>

図 1 NetInsights コンソール



Veritas Usage Insights について

Veritas NetInsights コンソールの一部である Usage Insights では、使用状況の情報を使用して、容量、従来、NEVC の各ライセンスとバックアップサイズデータを比較します。

Veritas Usage Insights は、NetBackup の配備の効率的な管理、傾向の認識、今後の計画の作成に役立ちます。正確なほぼリアルタイムのレポートで、バックアップされるデータの合計量を確認できます。Usage Insights は、ライセンス付与されている容量の制限を超過しそうになると警告します。Usage Insights を使用するには、NetBackup 8.1.2 以降が必要です。

図 2 Veritas Usage Insights の概要

Veritas Usage Insights の概要



Usage Insights の特長は次のとおりです。

- 保護対象のテラバイトに関する正確なほぼリアルタイムのレポート、保護対象のクライアントの合計数または合計ストレージ容量、保護されている仮想マシンを持つ Hypervisor のソケット合計数を提供。
- 使用傾向のグラフィカル表示が可能。
- 使用量を追跡し、使用状況が資格の範囲を超えそうになる前に警告。
- アカウントごとに簡単な計画と予算を策定。
- 急激な増加を察知。
- ライセンス形式と NetBackup 製品のバージョンに基づいて、使用状況に関する情報の内訳を表示。
- マスターサーバーレベルの情報が新たに利用可能。Usage Insights 内でマスターサーバーの名前を追加できます。

- Excel (.csv)、PDF (透かしあり)、json 形式の表をダウンロードする機能を提供。
- 表をダウンロードして電子メールで送信する機能を提供。電子メールの送信には Usage Insights のログインに関連付けられている電子メール ID が使用されます。

図 3 Veritas Usage Insights ダッシュボード - ライセンスの概略

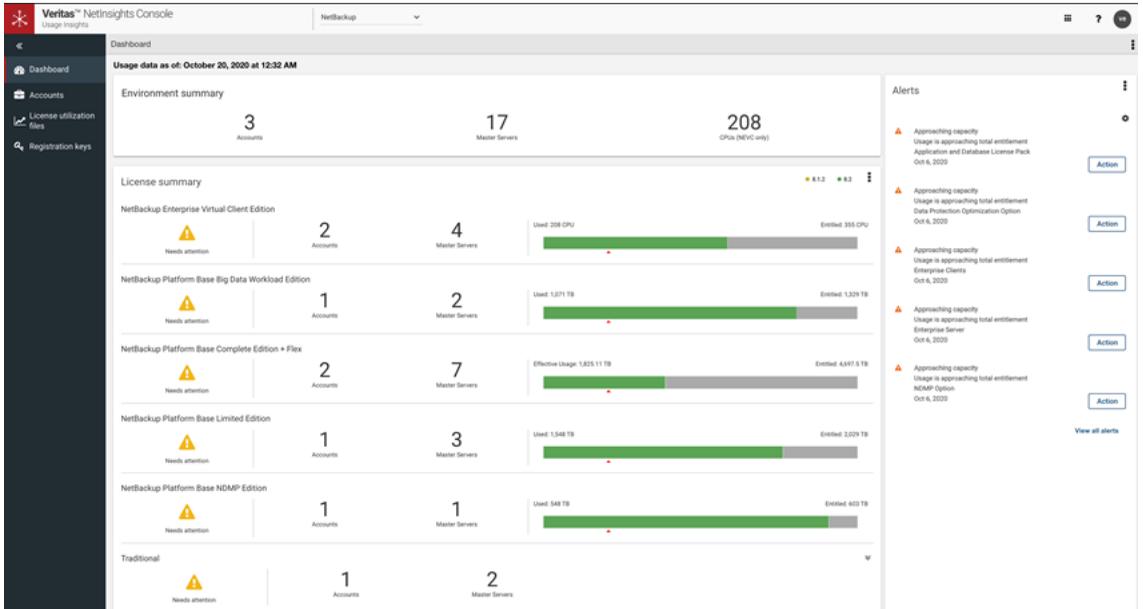
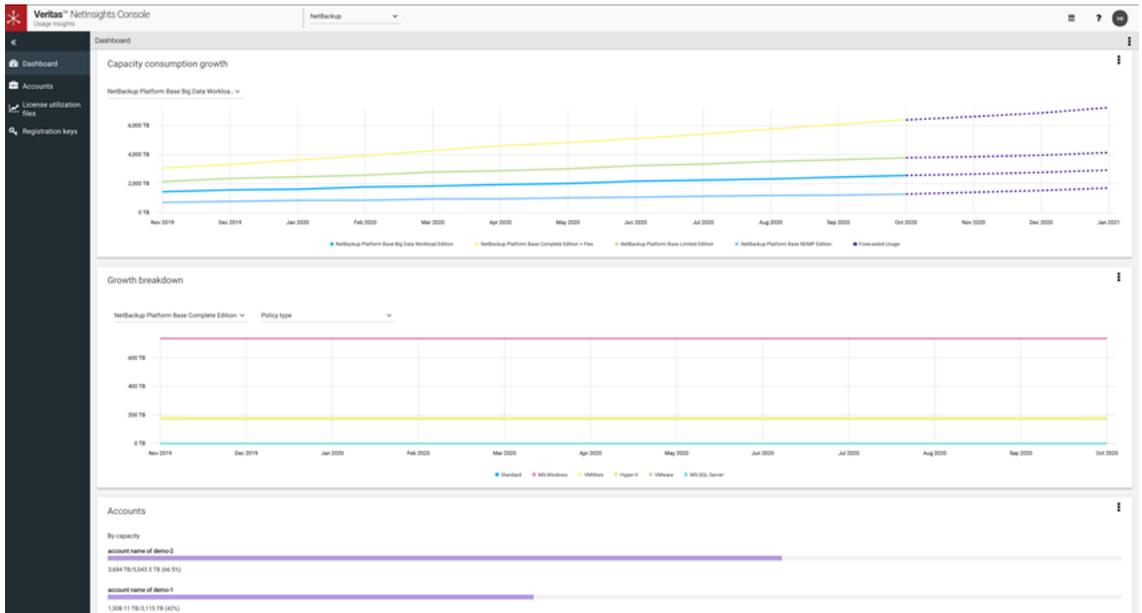


図 4 Veritas Usage Insights ダッシュボード - 容量の使用量と増加の内訳



Usage Insights は、次のライセンス形式をサポートしています。

- NetBackup Platform Base Complete Edition
- NetBackup Platform Base Limited Edition
- NetBackup Platform Base Big Data Workload Edition
- NetBackup Platform Base NDMP Edition
- NetBackup Enterprise Virtual Client Edition
- NetBackup Traditional Licensing Model Edition
- NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing

Usage Insights ですべてのライセンス形式を表示するには、NetBackup 8.2 以上が必要です。

NetBackup 8.1.2 の場合、表示できるのはデフォルトでは NetBackup Platform Base Complete Edition のみです。

全ライセンス形式をサポートする、最新の NetBackup 8.1.2 または 8.2 nbdeployutil EEB をダウンロードし、インストールしている場合は、すべてのライセンス形式を Usage Insights で表示できます。また、この EEB では、Flexible Licensing の一環として仮想の使用状況レポートに対する拡張サポートが提供されています。VMware 仮想マシン内

で NetBackup クライアントのみをインストールし、任意のポリシータイプを使って保護すると、クライアントは仮想の作業負荷として見なされ、Flexible Licensing のメリットが適用対象となります。

キャパシティライセンス (NDMP、Limited Edition、BigData、Complete)、従来のライセンス、または NEVC ライセンスを使用しているお客様の場合、Usage Insights を使用することで、容量の使用状況を正確に測定して、保護対象の各作業負荷のストレージ使用状況を包括的に把握でき、効率的な計画が可能になります。Usage Insights では、このようなお客様が遠隔測定データを手動で Veritas にアップロードする必要がありません。

Base Complete Edition with Flexible Licensing では、NetBackup 8.1.2 以降を使用していて、2019 年 4 月 14 日より後にライセンスを購入しており、少なくとも 90 日ごとに Usage Insights にデータを送信している場合、Platform Base Complete Edition のライセンス使用量は変換されます。変換された使用量は、Usage Insights ポータルに表示されます。

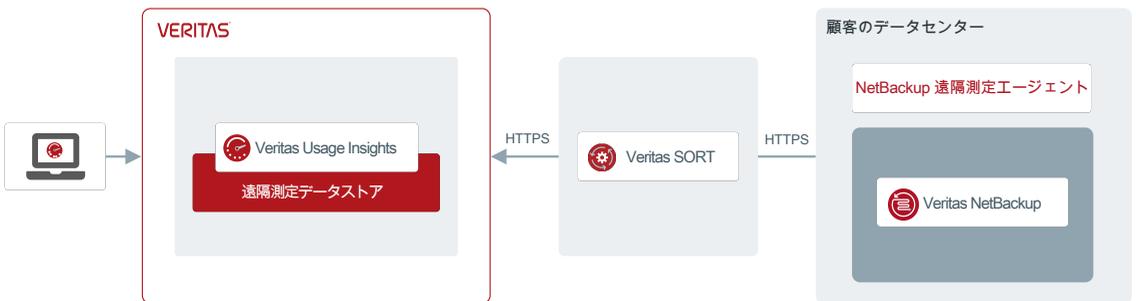
Veritas Usage Insights ポータルには、Google Chrome または Mozilla Firefox を使用して次の URL でアクセスできます。

<https://taas.veritas.com/>

Microsoft Internet Explorer および Microsoft Edge では正しくレンダリングされない情報があるため、これらを使用することはお勧めしません。

図 5 Veritas Usage Insights の概念的なアーキテクチャ

Veritas Usage Insights の概念的なアーキテクチャ



データ保護、プライバシー、およびセキュリティ基準

Veritas は、お客様のプライバシーとデータのセキュリティをお約束します。Usage Insights は、個人識別情報を含むお客様のデータコンテンツを Veritas に対して可視性がある形で提供することはありません。Usage Insights は、ホスト名や IP アドレスなど、お客様によっては重要であると見なす可能性がある構成データを限定的に収集します。Veritas は、お客様の視点でこのデータの重要性を認識し、厳しい慣例に従って安全に保護しま

す。NetBackup は機密性の高いデータを難読化します。Veritas は、EU 一般データ保護規則 (GDPR) を順守します。Veritas がお客様のプライバシーを管理する方法と GDPR に対する弊社の責任について詳しくは、次のサイトを参照してください。

<https://www.veritas.com/ja/jp/company/privacy/>

Veritas での個人情報の保護の仕組み

Veritas Usage Insights は、ユーザーデータまたはビジネスデータを収集しません。さらに、Veritas Usage Insights は、ファイル、データベース、およびその他の機密情報を記述するデータを収集しません。

ローカルコンピュータにデータが収集されると、顧客固有の情報はハッシュアルゴリズムを使用して覆い隠されます。NetBackup は、ユーザー情報の入力を求めるフィールドをすべて難読化します。ポリシー名およびサーバー名が、難読化されたデータの例です。Veritas は、暗号化ハッシュアルゴリズムを使用して顧客固有のデータをマスクします。

Usage Insights で難読化するフィールド

表 1 難読化するフィールド

ライセンス形式	json から難読化する項目
NetBackup Platform Base Complete Edition	master_server
NetBackup Platform Base Limited Edition	policy_name
NetBackup Platform Base Big Data Workload Edition	client_name
NetBackup Platform Base NDMP Edition	
NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing	
NetBackup Enterprise Virtual Client Edition	master_server cluster datacenter host
NetBackup Traditional Licensing Model Edition	master_server

NetBackup 8.1.2 以降では、次のフィールドが難読化されます。

master_server、policy_name、client_name

最新の NetBackup 8.1.2 nbdeployutil EEB をダウンロードまたはインストールしている場合、または全ライセンスをサポートする NetBackup 8.2 以降を使用している場合、NetBackup 8.1.2 以降および NetBackup 8.2 以降で次のフィールドが難読化されます。

cluster、datacenter、host

NetBackup 遠隔測定については、NetBackup 8.2 以降で次のフィールドが難読化されます。

- IP アドレス
- ホスト名
- FQDN

IP タイプは、IPv4 と IPv6 のどちらかを有効にするかを示すため Yes または No の値 (1 または 0) を返します。

ホスト ID は遠隔測定エージェントによって生成されます。これは、ホストを一意に識別し、それ以外のソフトウェアや値を特定しません。

プラットフォームとアーキテクチャのデータは難読化されません。これは、個人識別情報ではありません。

Veritas での移動中のデータの保護

データを収集し、顧客固有のすべての情報が覆い隠されると、データは業界標準の暗号化方式を使用して Veritas に安全に移動されます。さらに、ネットワークからのすべての Usage Insights のトラフィックはアウトバウンドのみです。

Usage Insights は移動中のデータを保護するために HTTPS プロトコルを使用します。Usage Insights を活用するには、ネットワーク外への HTTPS トラフィックを許可するようにファイアウォールを構成する必要があります。Veritas サーバー上のすべてのデータは、ベリタスのプライバシー基準に従って安全に維持されます。

Veritas は、次の基準を使用して Veritas に送信されたデータを保護します。

- MD5 および SHA256: 顧客情報を難読化するために使用されるハッシュアルゴリズムです。
- HTTPS (SSL/TLS 暗号化): データ伝送に使用します。

Veritas でデータが安全に維持される仕組み

オンサイトで難解化し、Veritas に安全に伝送したデータは、Amazon S3 クラウドに格納されます。S3 のデータは AES 256 で暗号化されます。

収集されたデータの種類とデータの収集イベント

お客様のライセンスが付与されたソフトウェアの使用に関連し、Veritas は Veritas Usage Insights などのさまざまなメカニズムやツールを使い、手段の制限なく、特定情報 (「収集対象データ」) を収集、保持、開示、使用する可能性があります。このセクションの目的において、Veritas Usage Insights は次の情報を収集するように設計されたツールです。

Usage Insights は Veritas への自動データアップロードを可能にするように設計されています。お客様の環境は、自動データアップロードを許可しないように構成できます。

配備情報は次のとおりです。

- 各サーバーに特有のハードウェアとソフトウェアの構成:
 - IP アドレス、IP の種類
 - 完全修飾ドメイン名 (FQDN)
 - エイリアス、ホスト名、ホスト ID、プラットフォーム、アーキテクチャ
- CPU の名前、種類、クロック速度など
- タイムゾーン
- 環境の言語
- オペレーティングシステムのバージョンレベル
- メモリサイズ
- ライセンスが付与された NetBackup ソフトウェアのバージョン、機能、およびインストール済みパッケージ
- 追加インストールしたベリタスパッケージ

使用情報は次のとおりです。

- NetBackup の構成設定
- ポリシータイプおよびプラットフォーム別のクライアント数
- ストレージユニットの構成
- NetBackup バージョンおよびプラットフォーム別のメディアサーバー数
- ポリシータイプ別のポリシー数
- ポリシーの構成
- ジョブレコード
- 保留中のメディアおよび保持レベル別のメディア数
- 操作形式別のストレージライフサイクルポリシー数 (SLP)
- SLP の構成

更新された最新のデータ収集と使用情報を参照するには、次にアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/ja/jp/company/privacy/>

4 つのイベントが、遠隔測定情報を Usage Insights を介して収集し、Veritas に伝送するように NetBackup に指示します。一部のイベントはユーザー操作により発生し、その他のイベントは時間の経過により発生します。イベントは次のとおりです。

- インストール、アップグレード、およびアンインストールイベント
- ランタイムイベント
- ドメイン情報
- 使用状況レポート

遠隔測定データのローカルリポジトリ

遠隔測定が有効になった各システム上で Veritas が収集したデータについては、そのローカルコピーを確認できます。Veritas が収集した遠隔測定情報のローカルコピーは、次の場所で確認できます。

- UNIX および Linux の場合:

```
/var/veritas/telemetry/  
/usr/opensv/var/global/telemetry/dataset
```

- Windows の場合:

```
%ALLUSERSPROFILE%\Veritas\telemetry\  
install_path\Veritas\NetBackup\var\global\telemetry\dataset
```

telemetry ディレクトリと dataset ディレクトリのどちらにも、telemetry_YYYYmmddHHMMxxx という形式のサブディレクトリがあります。Veritas に伝送されるデータは、これらのサブディレクトリ内にあります。

メモ: 2 つ目の Windows の場所 (..\global\telemetry\dataset) は、Windows クラスタでは異なる場合があります。この場所は、遠隔測定によるデータの検索先とは異なる場所にあるレジストリエントリに基づいています。

ローカルシステム上のすべての遠隔測定情報は人間が読み取り可能な形式で格納されますが、このデータは MD5 ハッシュアルゴリズムを介して渡されています。すべての顧客固有の情報は収集時に難読化されます。

メモ: ローカルディスクの使用量が 85% を超えている場合、ローカルリポジトリは空です。データセットは、ディスク容量を過度に消費しないように自動的に削除されます。

Veritas Usage Insights の有効化

Veritas Usage Insights の機能を利用するには、追加の操作を行う必要があります。

図 6 4 ステップの Usage Insights 登録プロセス

Usage Insights

4 ステップの登録プロセス



表 2 Veritas Usage Insights のプロセスフロー

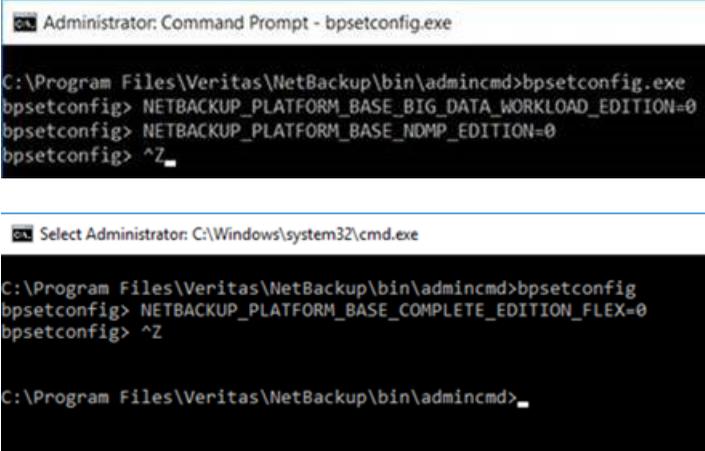
手順	処理	追加情報
1	ブレインストール	<p>Veritas アカウントマネージャのクレデンシャルを使用して Usage Insights にログインします。インストールまたはアップグレードの前に、カスタマ登録キーをダウンロードします。このファイルがないと、インストールとアップグレードを続行できません。</p> <p>必要なカスタマ登録キーをダウンロードするには:</p> <ul style="list-style-type: none">■ Google Chrome や Mozilla Firefox を使用して Veritas Usage Insights ポータルに接続します。 https://taas.veritas.com/■ Veritas アカウントマネージャアカウントを使用して、Veritas Usage Insights ポータルにログインします。■ Usage Insights に、アカウントに関連付けられているすべてのアカウント ID が表示されます。■ [登録キー (Registration Keys)]を選択し、アカウントに関連付けられている[アカウント ID (Account ID)]を見つけます。■ [アカウントファイル (Account file)]列のダウンロードオプションを使用して、カスタマ登録キーを取得します。 <p>複数のファイルが表示される場合は、指定したマスターサーバーのアカウントに一致するカスタマ登録キーをダウンロードします。</p> <p>警告: 登録キーのファイル名は変更しないでください。</p> <p>Usage Insights にログインできない、またはカスタマ登録キーをダウンロードできない場合は、Veritas のサポートにお問い合わせください。サポートからログインとカスタマ登録キーのダウンロードのための支援を受けられます。サポートがカスタマ登録キーのダウンロードを支援できない場合、一時的なカスタマ登録キーファイルが提供されます。</p>

手順	処理	追加情報
2	登録とアップグレード	<p>Usage Insights には NetBackup 8.1.2 以降が必要です。NetBackup マスターサーバーを NetBackup 8.1.2 以降にインストールするか、アップグレードする必要があります。インストールプロセスまたはアップグレードプロセスの一環として、カスタマ登録キーを入力する必要があります。</p> <p>『NetBackup アップグレードガイド』に、マスターサーバーを正常にアップグレードする方法の包括的で詳細な情報が記載されています。『NetBackup アップグレードガイド』とその他の関連する NetBackup マニュアルは次の URL から入手できます。</p> <p>https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040135</p> <p>アップグレード方式について詳しくは、『Veritas NetBackup アップグレードガイド』で利用可能な NetBackup のアップグレード方式のセクションを参照してください。</p> <p>アップグレードまたはインストール後</p> <p>アップグレードまたはインストールの後は、新しいまたは適切なカスタマ登録キーを NetBackup 8.1.2 以降に関連付け、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">1 マスターサーバーの次の場所にアクセスします。 UNIX の場合 <pre>/usr/openv/var/global/customer_registration</pre> Windows の場合 <pre><NetBackup_install_directory>%var%global%customer_registration</pre> 既存のカスタマ登録キーは、名前を変更するか削除します。2 Usage Insights から新しいまたは適切なカスタマ登録キー、または集計キーを一時的な場所にダウンロードします。 警告: 新しい登録キーのファイル名は変更しないでください。3 Web ブラウザを開き、次の URL に移動します。 https://masterserver/webui/login masterserver は、サインインする NetBackup マスターサーバーのホスト名または IP アドレスです。4 クレデンシャルを入力して、[サインイン (Sign in)]をクリックします。5 カスタマ登録キーのアップロードを求められたら、このマスターサーバーに適したキーを選択してアップロードします。6 集計登録キーがインストールされている場合は、このサーバー用の正しい登録キーをドロップダウンリストから選択します。 <p>メモ: NetBackup Web UI ダッシュボードの[使用状況レポート (Usage reporting)]ウィジェットから手順 5 と 6 を実行することもできます。</p>

手順	処理	追加情報
3	構成	

手順	処理	追加情報														
		<p>bpsetconfig コマンド (最新の 8.1.2 nbdeployutil EEB がインストールされていない場合は 8.2 以降) を使用してライセンス形式を構成します。</p> <p>最新の NetBackup 8.1.2 nbdeployutil EEB をダウンロードおよびインストールした場合は、bpsetconfig コマンドを使用してライセンス形式を構成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> bpsetconfig では、次のライセンス形式とそれに対応する名前が使用されます。 <table border="1" data-bbox="475 487 1214 1072"> <tr> <td>NetBackup Platform Base Complete Edition</td> <td>NETBACKUP_PLATFORM_BASE_COMPLETE_EDITION</td> </tr> <tr> <td>NetBackup Platform Base Limited Edition</td> <td>NETBACKUP_PLATFORM_BASE_LIMITED_EDITION</td> </tr> <tr> <td>NetBackup Platform Base Big Data Workload Edition</td> <td>NETBACKUP_PLATFORM_BASE_BIG_DATA_WORKLOAD_EDITION</td> </tr> <tr> <td>NetBackup Platform Base NDMP Edition</td> <td>NETBACKUP_PLATFORM_BASE_NDMP_EDITION</td> </tr> <tr> <td>NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing</td> <td>NETBACKUP_PLATFORM_BASE_COMPLETE_EDITION_FLEX</td> </tr> <tr> <td>NetBackup Enterprise Virtual Client Edition</td> <td>NETBACKUP_ENTERPRISE_VIRTUAL_CLIENT_EDITION</td> </tr> <tr> <td>NetBackup Traditional Licensing Model Edition</td> <td>NETBACKUP_TRADITIONAL_LICENSING_MODEL_EDITION</td> </tr> </table> <p>マスターサーバーでライセンス形式を設定する例を示します。</p> <p>NetBackup Platform Base Complete Edition、NetBackup Platform Base Big Data Workload Edition、および NetBackup Platform Base NDMP Edition を設定する場合</p>  <pre>Administrator: Command Prompt - bpsetconfig.exe C:\Program Files\Veritas\NetBackup\bin\admincmd>bpsetconfig.exe bpsetconfig> NETBACKUP_PLATFORM_BASE_COMPLETE_EDITION=1 bpsetconfig> NETBACKUP_PLATFORM_BASE_BIG_DATA_WORKLOAD_EDITION=1 bpsetconfig> NETBACKUP_PLATFORM_BASE_NDMP_EDITION=1 bpsetconfig> ^Z</pre> <p>Unix/Linux の場合</p>	NetBackup Platform Base Complete Edition	NETBACKUP_PLATFORM_BASE_COMPLETE_EDITION	NetBackup Platform Base Limited Edition	NETBACKUP_PLATFORM_BASE_LIMITED_EDITION	NetBackup Platform Base Big Data Workload Edition	NETBACKUP_PLATFORM_BASE_BIG_DATA_WORKLOAD_EDITION	NetBackup Platform Base NDMP Edition	NETBACKUP_PLATFORM_BASE_NDMP_EDITION	NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing	NETBACKUP_PLATFORM_BASE_COMPLETE_EDITION_FLEX	NetBackup Enterprise Virtual Client Edition	NETBACKUP_ENTERPRISE_VIRTUAL_CLIENT_EDITION	NetBackup Traditional Licensing Model Edition	NETBACKUP_TRADITIONAL_LICENSING_MODEL_EDITION
NetBackup Platform Base Complete Edition	NETBACKUP_PLATFORM_BASE_COMPLETE_EDITION															
NetBackup Platform Base Limited Edition	NETBACKUP_PLATFORM_BASE_LIMITED_EDITION															
NetBackup Platform Base Big Data Workload Edition	NETBACKUP_PLATFORM_BASE_BIG_DATA_WORKLOAD_EDITION															
NetBackup Platform Base NDMP Edition	NETBACKUP_PLATFORM_BASE_NDMP_EDITION															
NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing	NETBACKUP_PLATFORM_BASE_COMPLETE_EDITION_FLEX															
NetBackup Enterprise Virtual Client Edition	NETBACKUP_ENTERPRISE_VIRTUAL_CLIENT_EDITION															
NetBackup Traditional Licensing Model Edition	NETBACKUP_TRADITIONAL_LICENSING_MODEL_EDITION															

手順	処理	追加情報
		<div data-bbox="504 286 1276 468"> <pre>[root@sj-nonwin4 admincmd]# ./bpsetconfig bpsetconfig> NETBACKUP_PLATFORM_BASE_COMPLETE_EDITION=1 bpsetconfig> NETBACKUP_PLATFORM_BASE_BIG_DATA_WORKLOAD_EDITION=1 bpsetconfig> NETBACKUP_PLATFORM_BASE_NDMP_EDITION=1 bpsetconfig> [root@sj-nonwin4 admincmd]#</pre> </div> <p data-bbox="504 494 1216 555">NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing を設定する場合</p> <div data-bbox="504 581 1276 850"> <pre>Administrator: C:\Windows\system32\cmd.exe C:\Program Files\Veritas\NetBackup\bin\admincmd>bpsetconfig bpsetconfig> NETBACKUP_PLATFORM_BASE_COMPLETE_EDITION_FLEX=1 bpsetconfig> ^Z C:\Program Files\Veritas\NetBackup\bin\admincmd>_</pre> </div> <p data-bbox="504 876 1055 911">NetBackup Enterprise Virtual Client Edition を設定する場合</p> <div data-bbox="504 937 1209 1093"> <pre>Administrator: Command Prompt - bpsetconfig.exe C:\Program Files\Veritas\NetBackup\bin\admincmd>bpsetconfig.exe bpsetconfig> NETBACKUP_ENTERPRISE_VIRTUAL_CLIENT_EDITION=1 bpsetconfig> ^Z_</pre> </div> <p data-bbox="504 1119 1095 1154">NetBackup Traditional Licensing Model Edition を設定する場合</p> <div data-bbox="504 1180 1196 1336"> <pre>Administrator: Command Prompt - bpsetconfig.exe C:\Program Files\Veritas\NetBackup\bin\admincmd>bpsetconfig.exe bpsetconfig> NETBACKUP_TRADITIONAL_LICENSING_MODEL_EDITION=1 bpsetconfig> ^Z_</pre> </div>

手順	処理	追加情報
		<p>構成されているライセンス形式を削除する場合</p>  <p>bpsetconfig コマンドを使用してライセンス形式を設定しない場合、Usage Insights に送信される使用状況の情報は、デフォルトでは NetBackup Platform Base Complete Edition の情報です。</p> <p>ライセンス形式の詳細情報があります。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。</p>
4	データ伝送	<p>遠隔測定は 2 とおりの方法で Veritas Usage Insights に伝送されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自動 ■ 手動アップロード ■ p.22 の「Veritas へのデータ伝送」を参照してください。 ■ p.23 の「遠隔測定情報の手動アップロード」を参照してください。

複数のマスターサーバーがある環境

このセクションは、容量ライセンスにのみ適用されます。複数のマスターサーバーがある環境では、特定のマスター上で、一部またはすべてのマスターサーバーから使用状況を収集するように nbdeployutil を構成できます。この場合、8.1.2 以降にアップグレードする必要があるのはその特定のマスターサーバーのみです。さらに、カスタム登録キーを配置する必要があるのもそのマスターサーバーのみです。このサーバーが、すべてのマスターサーバーのプロキシとして機能し、遠隔測定情報を Veritas に伝送します。これらのすべてのマスターサーバーが、同じ顧客識別子を使用する必要があります。

nbdeployutil の詳細情報があります。『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』と『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

カスタマ登録キーに関する重要な情報

カスタマ登録キーについての次の情報に注意してください。

- カスタマ登録キーには、資格情報は含まれません。
- Usage Insights にサインインすると、アカウントに関連付けられているすべてのアカウント ID のリストを確認できます。
- 1 つのカスタマ登録キーまたは集計されたキーをダウンロードできます。
 - 1 つのキーは、1 つのアカウントに関連付けられます。
 - 複数のアカウントの ID に関連付けられている集計されたカスタマ登録キーもダウンロードできます。集計されたキーをダウンロードする場合、NetBackup Web UI で、マスターサーバーに関連付けられているアカウント ID を選択するように求められます。

注意: 登録キーのファイル名は変更しないでください。

- カスタマ登録キーは、NetBackup 8.1.2 以降のインストールまたはアップグレード中に必要です。
- カスタマ登録キーは、1 台以上のマスターサーバーと使用でき、アカウントに関連付けられている資格の種類には関係しません。
- マスターサーバーの使用状況の詳細は、そのマスターサーバーに関連付けられているアカウントに対して報告されます(アカウントは、インストールまたはアップグレード時に選択したカスタマ登録キーから判断されています)。
- マスターサーバーに関連付けられたアカウント ID を変更するには、次のトピックから、「アップグレードまたはインストール後」セクションを参照してください。
p.14 の「[Veritas Usage Insights の有効化](#)」を参照してください。
- Usage Insights のすべてのアカウント ID について、所有する資格と比較して使用状況を確認できます。

Veritas へのデータ伝送

必要な遠隔測定情報は、次の 2 種類の方法で Veritas にアップロードされます。アップロード方式にどれを選択するかは、お客様の設定によって異なります。

デフォルトでは、データは毎日自動的にアップロードされます。この方式では、ユーザーによる操作が少なく、Usage Insights データが最新に保たれます。この方式では、HTTPS トラフィックを送送するためにファイアウォールに開かれているポートが必要です。HTTPS トラフィックのデフォルトのポートはポート 443 です。

使用する環境で自動アップロードが許可されていない場合は、必要な遠隔測定情報を手動でアップロードできます。

p.23 の「[遠隔測定情報の手動アップロード](#)」を参照してください。

遠隔測定情報の手動アップロード

使用する環境で Usage Insights データの自動アップロードが許可されていない場合は、必要な使用状況レポート情報を Veritas Usage Insights アプリケーションで手動でアップロードできます。たとえば、エアギャップがある環境の場合、容量データを Usage Insights に提供するために手動アップロード方式を使用できます。この方式では、ベリタスに情報を伝送する前にその情報を確認できますが、Usage Insights 内のデータは正確ではありません。

Veritas では、少なくとも月に 1 回、大規模環境の場合はより頻繁に、データを手動でアップロードすることをお勧めします。使用状況通知と監視機能は、最新である場合に最も有効です。

Usage Insights のデータをアップロードするには:

- 1 Veritas アカウントマネージャのクレデンシャルを使用して、Usage Insights にログインします。
- 2 画面の左側にある[ライセンス使用率ファイル (License utilization files)]を選択します。
- 3 表示される画面で、[ファイルのアップロード (Upload files)]を選択します。
- 4 アップロードする遠隔測定ファイルを参照します。Usage Insights のライセンス使用率ファイルの正しい場所は次のとおりです。
 - UNIX および Linux の場合: `/usr/opensv/var/global/incremental/`
 - Windows の場合:
`install_path\Veritas\NetBackup\var\global\incremental`
 - ファイル名:
`hostuuid_startinterval_netbackup_capacity-utilization.json`

メモ: このファイルには、Usage Insights に必要なライセンスの使用率に関する情報が含まれています。Veritas が収集するすべての遠隔測定情報を参照するには、次を参照してください。

p.14 の「[遠隔測定データのローカルリポジトリ](#)」を参照してください。

以前の json ファイルはマスターサーバーの容量を消費していました。NetBackup 8.1.2 以降、古い json ファイルは、nbdeployutilconfig.txt ファイルの PURGE_INTERVAL パラメータに基づいて削除されます。PURGE_INTERVAL パラメー

タの値が、json ファイルを Usage Insights ポータルにアップロードする必要があるときにそれらのファイルを使用できるようになっていることを確認してください。

- 5 アップロードするファイルを選択し、[選択 (Choose)]をクリックします。ファイルが Veritas にアップロードされます。
- 6 [ライセンス使用率ファイル (License utilization files)]画面に、Veritas にアップロードされたすべてのファイルのリストが表示されます。

表 3

自動	手動
<p>1 カスタマ登録キー、または 1 つ以上のアカウントのアカウント ID ファイルをダウンロードすることで、Usage Insights のライセンス使用状況遠隔測定を有効にします。</p> <p>2 Usage Insights にサインインした後は、アカウントのカスタマ登録キーまたはアカウント ID ファイルをダウンロードする必要があります。これらのファイルは、インストールまたはアップグレード中に、ローカルの NetBackup マスターサーバーにインストールされません。</p> <p>すべてのマスターサーバーが Usage Insights に接続でき、データを送信できる場合、すべてのマスターサーバーにカスタマ登録キーをインストールします。</p> <p>nbdeployutil の実行がスケジュール設定されていることを確認します。これは Usage Insights で使用される使用状況データを生成するツールです。</p>	<p>1 使用する環境で自動アップロードが許可されていない場合は、遠隔測定ファイルをベリタスにアップロードして Usage Insights を更新できます。</p> <p>Usage Insights を使用することで、ライセンスが付与された容量と使用状況をリンクして確認できるように、遠隔測定ファイルを手動でアップロードできます。</p> <p>nbdeployutil の実行がスケジュール設定されていることを確認します。これは Usage Insights で使用される使用状況データを生成するツールです。</p> <p>2 次の場所から、使用状況情報を提供する <code>hostuid_startinterval_netbackup_capacity-utilization.json</code> ファイルをコピーします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ UNIX の場合: <code>/usr/opensv/var/global/incremental</code> ■ Windows の場合: <code>install_path¥var¥global¥incremental</code> <p>p.11 の「Usage Insights で難読化するフィールド」を参照してください。</p> <p>[ライセンス使用率ファイル (License utilization files)]ページを使用して、ファイルをアップロードします。</p>

NetBackup マスターサーバーとメディアサーバーの CALLHOME_PROXY_SERVER オプション

このオプションでは、Usage Insight のデータを Veritas に中継するために NetBackup が使用する、認証されていないプロキシサーバーを指定できます。この時点で、NetBackup には、値が正しく設定されているかどうかを検証する方法はありません。Usage Insight インターフェースには、データが正常に Veritas にアップロードされてから経過した日数を示すメッセージが表示されます。現在サポートされているプロトコルは、http のみです。

表 4 CALLHOME_PROXY_SERVER の情報

使用方法	説明
使用する場所	NetBackup マスターサーバーとメディアサーバー上。
使用方法	<p>bpsetconfig コマンドと、表示されている形式を使用して、サーバーに CALLHOME_PROXY_SERVER オプションを設定します。</p> <pre>echo CALLHOME_PROXY_SERVER = protocol://url:port bpsetconfig</pre> <p>または、bpsetconfig を開始して、次のようにプロンプトでキーと値のペアを入力します。</p> <pre># bpsetconfig bpsetconfig> CALLHOME_PROXY_SERVER = protocol://url:port ^D</pre> <p>Ctrl+D (UNIX) または Ctrl+Z (Windows) を使用して、構成の変更を送信します。</p> <p>詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で bpsetconfig についての情報を参照してください。</p>
例	<pre>echo CALLHOME_PROXY_SERVER = http://proxy.example.com:3128 bpsetconfig</pre> <p>または</p> <pre># bpsetconfig bpsetconfig> CALLHOME_PROXY_SERVER = http://proxy.example.com:3128 ^D</pre>
同等の管理コンソールのプロパティ	NetBackup 管理コンソールのホストプロパティには、このエントリに相当するエントリは存在しません。

よく寄せられる質問

表 5 では、Veritas Usage Insights に関してよく寄せられる質問を取り上げます。

表 5 よく寄せられる質問

質問	回答
Usage Insights の概要	
Usage Insights ではどのようなブラウザがサポートされますか	Usage Insights は、Google Chrome および Mozilla Firefox と互換性があります。Microsoft Internet Explorer および Microsoft Edge では正しくレンダリングされない情報があるため、これらを使用することはお勧めしません。

質問	回答
左側でクリックしたときに、[カスタマ登録キー (Customer Registration Keys)]画面が表示されない場合があるのはなぜですか	Usage Insights 画面の URL には、接続が途切れる問題があります。左側の別のオプションのいずれかをクリックし、[カスタマ登録キー (Customer Registration Keys)]をもう一度クリックすると、URL は https://taas.veritas.com/#/enableTelemetry にリセットされます。
Usage Insights でサポートされているライセンス形式は何ですか	<p>Usage Insights は、次のライセンス形式をサポートしています。</p> <p>NetBackup 8.1.2</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup Platform Base Complete Edition <p>NetBackup 8.1.2 (EEB あり) または NetBackup 8.2 以降</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup Platform Base Complete Edition ■ NetBackup Platform Base Limited Edition ■ NetBackup Platform Base Big Data Workload Edition ■ NetBackup Platform Base NDMP Edition ■ NetBackup Enterprise Virtual Client Edition ■ NetBackup Traditional Licensing Model Edition ■ NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing <p>容量ライセンスの使用状況は、bpsetconfig を使ってライセンス形式を設定 (次のセクションの手順 3 を参照) しないかぎり、デフォルトでは NetBackup Platform Base Complete Edition ライセンス形式に表示されます。</p> <p>p.14 の「Veritas Usage Insights の有効化」を参照してください。</p> <p>Base Complete Edition with Flexible Licensing を購入した場合、容量ライセンスの使用状況が Usage Insights の NetBackup Platform Base Complete Edition Flex タイプの下に表示されます。</p> <p>Complete Edition と Base Complete Edition with Flexible Licensing が両方ともある場合は、容量ライセンスの使用状況が Usage Insights の NetBackup Platform Base Complete Edition + Flex タイプの下に表示されます。</p>
容量ライセンスを使用しない場合も、NetBackup のインストールまたはアップグレード中にカスタマ登録キーが必要ですか	はい。NetBackup のインストールまたはアップグレードを完了するには、現在のライセンスで登録キーをダウンロードする必要があります。 登録キーを追加すると、Usage Insights でライセンスを管理および追跡できます。
Usage Insights で顧客名が誤って扱われるのはなぜですか	このような状況が 1% 未満のケースで発生します。このような場合、ERP システムの顧客名を修正するために、テクニカルサポートにお問い合わせください。
Usage Insights は 360 度データ管理パナドルで機能しますか	NetBackup ソフトウェアコンポーネントについてのみ、使用状況および資格が表示されます。

質問	回答
<p>Usage Insights が遠隔測定情報を処理する仕組みを教えてください</p>	<p>Usage Insights は、ユーザーデータまたはビジネスデータを収集しません。さらに、Usage Insights は、ファイル、データベース、およびその他の機密情報を記述するデータを収集しません。ローカルコンピュータにデータが収集されると、顧客固有の情報はハッシュアルゴリズム (MD5 と SHA256) を使用して覆い隠されます。Usage Insights は、ユーザー情報の入力を求めるフィールドをすべて難読化します。ポリシー名およびサーバー名が、難読化されたデータの例です。Veritas は暗号化ハッシュアルゴリズムを使用して顧客固有のデータをマスクします。</p> <p>p.11 の「Usage Insights で難読化するフィールド」を参照してください。</p> <p>p.12 の「収集されたデータの種類とデータの収集イベント」を参照してください。</p> <p>データを収集し、顧客固有のすべての情報が覆い隠されると、データは業界標準の暗号化方式を使用して Veritas に安全に伝送されます。さらに、ネットワークからのすべての Usage Insights のトラフィックはアウトバウンドのみです。Usage Insights は移動中のデータを保護するために HTTPS プロトコル (SSL/TLS で暗号化) を使用します。Usage Insights を活用するには、ネットワーク外への HTTPS トラフィックを許可するようにファイアウォールを構成する必要があります。</p>
<p>遠隔測定データはどのように Usage Insights ポータルに移動しますか</p>	<p>nbertelemetry プロセスは Veritas SORT インフラの一部である https://telemetry.veritas.com にデータを安全に送信します。その後データは、処理目的で Usage Insights に安全に伝送され、ポータルに表示されます。</p>

質問	回答
Veritas Usage Insights で共有されているデータが安全であること、およびマスクされていることはどのように確認できますか	

質問	回答
	<p>使用状況レポートの .out ファイルと .xls ファイル (nbdeployutil で作成) では、レポートを処理できるようにするためデータはマスクされません。使用状況レポートは Veritas Usage Insights の情報とは共有されません。</p> <p>Veritas Usage Insights と共有されている JSON ファイルは、マスターサーバーの次の場所にあります。</p> <p>UNIX および Linux の場合: /usr/opensv/var/global/incremental/ Windows の場合: install_path\Veritas\NetBackup\var\global\incremental</p> <p>ファイル名: hostuuid_startinterval_netbackup_capacity-utilization.json</p> <p>JSON ファイルは、標準の nbdeployutil レポート (.out ファイルおよび .xls ファイル) とは異なります。</p> <p>たとえば、この例では、マスター名、クライアント名、ポリシー名がすべてマスクされています。</p> <pre>active_account_information customer_identifier_value "FLPK-3" selection_type "user" customer_identifier_document_created_by "usage_insights" customer_identifier_document_timestamp 1525120750 customer_identifier_document_version "1.0" customer_identifier_document_updated_by "usage_insights" document_version "1.0" document_type "capacity-utilization" start_interval 20180713 appliance_serial_number "na" server_identifier_value "763AE951-6BF4-1014-84C4-BF6B1B9526AF" accuracy "OK" master_server "65e043f207e518a21ba9d04613fd094967 bd49e2c81081068172cd5e000ce4a8" charged_size 2322432 client_name "65e043f207e518a21ba9d04613fd094967 bd49e2c81081068172cd5e000ce4a8" total_size 2322432 policy_type "MS-Windows"</pre>

質問	回答
	<pre>accuracy_method 2 size_uom "kb" policy_name "e6f906b897ee168fa5b4f84883941b759 c53d3608b83bac5586c278ea55b7a27" accuracy_comment ""</pre> <p>Usage Insights を使用している場合は、対象の JSON ファイルを確認できます。</p> <p>メモ: JSON ファイルは、Firefox またはその他の JSON ビューアツールを使用して確認できます。</p>
ベリタスはデータプライバシーをどのように管理しますか	ベリタスがお客様のプライバシーを管理する方法と GDPR に対する弊社の責任について詳しくは、次のサイトを参照してください。 https://www.veritas.com/ja/jp/company/privacy/
Usage Insights ではライセンス監査用の nbdeployutil が置き換わりますか	Usage Insights はライセンスの使用状況を測るための正式なツールです。ただし、nbdeployutil コマンドは Usage Insights に情報を提供します。そのため、nbdeployutil はそのまま使用されます。さらに、nbdeployutil はその他すべての NetBackup ソフトウェアライセンスモデルの記録元として引き続き機能します。
インターネットに接続していない場合に Usage Insights を使用できますか	できますが、インターネット接続があるコンピュータから容量の使用状況の情報を手動でアップロードする必要があります。
ログを転送する目的で Usage Insights を使用できますか	現在この機能は使用できません。
Usage Insights を試したいです。カスタム登録キーはどのように入手できますか	ベリタスとの ERP アカウントをお持ちであれば、Usage Insights にアクセスし、登録キーからキーをダウンロードできます。
現在ベリタスの顧客ではありませんが、NetBackup 8.1.2 以降と Usage Insights を試せますか	NetBackup 8.1.2 以降のインストールに必要なカスタム登録キーをサポートにお問い合わせください。また、Usage Insights にアクセスするためのベリタスとの ERP アカウントも必要です。
NetBackup サポートユーティリティ (NBSU) は、nbdeployutil や Usage Insights に関する情報、たとえば、有効な登録キーがあるかどうか、キーの種類 (一時キー、集計キー、通常キー)、nbdeployutil 構成ファイルの設定、およびトラブルシューティングに役立つ証拠となるその他の関連情報を収集しますか	NBSU は、nbdeployutil ユーティリティまたはその構成に関する情報を収集しません。

質問	回答
遠隔測定の実集や ping の詳細についての問い合わせ先を教えてください	遠隔測定の実集または ping による影響がある場合は、サポート窓口に直接お問い合わせください。セールスエンジニアや営業担当が代わりにサポート窓口に連絡することもできます。
Usage Insights にあるコンテンツをエクスポートしてマネジメントチームや監査チームに渡したいのですがこれは可能ですか	Usage Insights のコンテンツは、表形式で CSV にエクスポートできます。
OpsCenter、Usage Insights などの統合計画はありますか	ベリタスは、お客様のデータに関するあらゆるニーズを視覚化するための最適なソリューションを検討中です。
プロキシサーバーはどのように指定できますか	Usage Insights のデータをベリタスに中継するために NetBackup が使用する、認証されていないプロキシサーバーを指定できます。 p.24 の「NetBackup マスターサーバーとメディアサーバーの CALLHOME_PROXY_SERVER オプション」 を参照してください。
アカウント、資格、ライセンス	
従来のライセンスを持っていますが、登録キーが必要ですか	はい。アップグレードおよびインストールには登録キーが必要です。
Usage Insights ワークフローは、形式 2 試用版を使用し、VEMS から資格を取得するときに、概念実証にどのように影響しますか	Usage Insights ワークフローでは、概念実証への影響はありません。概念実証で消費されるデータは、その資格に対して測定されるため、その特定の環境で超過を示すことはありません。概念実証マスターサーバーのインストールでは、一時的なカスタム登録キーを取得するために、サポートにお問い合わせする必要があります。
Usage Insights にある現在の私の顧客情報が正確であることをベリタスはどのように確認しますか	お客様には、すべての情報が正確であることを確認する責任があります。不正確な情報が入力されると、Usage Insights からも不正確な情報が報告されます。

質問	回答
<p>Usage Insights が使用状況に関する正確な情報を示していることを確かめる方法はありますか</p>	<p>その他のご質問については、『NetBackup 管理者ガイド』にある nbdeployutil ユーティリティに関するトピックを参照してください。Usage Insights には、製品の使用感を向上する細かな機能を組み込んでいく予定です。</p> <p>nbdeployutil ユーティリティの自動実行またはスケジュール設定による実行で取得したデータは、Usage Insights に送信されます。これらの実行時、nbdeployutil はマスターサーバーでも Excel 形式のレポートを生成します。Usage Insights と Excel レポートで使用状況を比較できます。</p> <p>この場合、Usage Insights で指定したアカウントで設定したすべてのマスターサーバーからの Excel レポートを使用するようにしてください。</p> <p>nbdeployutil が生成した最新の Excel レポートは、マスターサーバーの次のパスで利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 容量ライセンス Unix の場合: /usr/opensv/var/global/incremental Windows の場合: <code>Install_Dir%Veritas%NetBackup%var%global%incremental</code>■ 従来のライセンス (最新の 8.1.2 nbdeployutil EEB がインストールされていない場合は 8.2 以降) Unix の場合: /usr/opensv/var/global/traditional Windows の場合: <code>Install_Dir%Veritas%NetBackup%var%global%traditional</code>■ NEVC (最新の 8.1.2 nbdeployutil EEB がインストールされていない場合は 8.2 以降) Unix の場合: /usr/opensv/var/global/NEVC Windows の場合: <code>Install_Dir%Veritas%NetBackup%var%global%NEVC</code> <p>以前の Excel レポートは、次のパスから入手できます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 容量ライセンス Unix の場合: /usr/opensv/var/global/incremental/archive Windows の場合: <code>Install_Dir%Veritas%NetBackup%var%global%incremental%archive</code>■ 従来のライセンス (最新の 8.1.2 nbdeployutil EEB がインストールされていない場合は 8.2 以降) Unix の場合: /usr/opensv/var/global/traditional/archive Windows の場合: <code>Install_Dir%Veritas%NetBackup%var%global%traditional%archive</code>■ NEVC (最新の 8.1.2 nbdeployutil EEB がインストールされていない場合は 8.2 以降) Unix の場合: /usr/opensv/var/global/NEVC/archive Windows の場合: <code>Install_Dir%Veritas%NetBackup%var%global%NEVC%archive</code>

質問	回答
使用状況が正確でない場合はどうしたらよいですか	<p>ベリタスのテクニカルサポートにお問い合わせのうえ、ライセンス形式に基づいたログが格納されている増分フォルダ内のディレクトリを提出してください。</p> <p>ディレクトリのパスは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 容量ライセンス Unix の場合: /usr/opensv/var/global/incremental Windows の場合: <code>Install_Dir\Veritas\NetBackup\var\global\incremental</code>■ 従来のライセンス (最新の 8.1.2 nbdeployutil EEB がインストールされていない場合は 8.2 以降) Unix の場合: /usr/opensv/var/global/traditional Windows の場合: <code>Install_Dir\Veritas\NetBackup\var\global\traditional</code>■ NEVC (最新の 8.1.2 nbdeployutil EEB がインストールされていない場合は 8.2 以降) Unix の場合: /usr/opensv/var/global/NEVC Windows の場合: <code>Install_Dir\Veritas\NetBackup\var\global\NEVC</code>
顧客が事業を分割または統合した場合はどうなりますか	<p>アカウントの統合または分割に関する要望を解決するには、技術的な問い合わせではない案件としてケースをオープンしてください。</p> <p>詳しくは、次の記事を参照してください。</p> <p>https://www.veritas.com/support/en_US/article.100044856.html</p> <p>Usage Insights は、他のシステムが更新され、次の手順が実行されたときに、使用状況の情報を取得します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ マスターサーバーがバージョン 8.1.2 以降で実行されている■ 更新された登録キーがマスターサーバーに追加された■ データ伝送が設定された (手動または自動)
サービスプロバイダはチャージバックのために Usage Insights を使用できますか	<p>はい。パートナーとお客様の両方にこのポータルへのアクセス権限があるため、同じデータを一緒に表示し、容量超過に対処できます。</p>
容量を増やすために新しい資格を購入した場合、新しいカスタム登録キーを手に入れることになりますか	<ul style="list-style-type: none">■ 新しい資格が同じアカウントに結び付けられている場合、次回 Usage Insights ポータルにログインしたときに、容量が更新され新しい資格の合計が表示されます。■ 新しい資格が同じアカウントに関連付けられていない場合、次のように対応します。<ul style="list-style-type: none">■ テクニカルサポートにお問い合わせください。■ 新しい登録キーをダウンロードし、Usage Insights の指示に従って適切なマスターサーバーにキーを追加します。

質問	回答
自分の資格が正しく表示されない場合の修正方法を教えてください	サポートチームまたは営業チームにお問い合わせください。
VEMS (Veritas Entitlement Management System) にあるアカウントIDの数を減らすにはどうすればよいですか	<p>技術的ではない案件としてケースを開いて、お客様のアカウント情報を更新してください。</p> <p>詳しくは、次の記事を参照してください。</p> <p>https://www.veritas.com/support/en_US/article.100044856.html</p> <p>または、新たに注文するときに、アカウント名がすでに所有しているものと同じであることを確認します。</p> <p>たとえば、ABCD Incorporated というアカウントがすでにある場合は、ABC Inc. という名前で送信しないようにします。</p>
ユーザーとしてビジネスパートナーに Usage Insights データへの表示アクセス権限を付与するには、どのようにパートナーと連携すればよいですか	<p>Usage Insights データの表示アクセス権限を付与するには、次の手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ パートナーに次の操作を依頼します。 サポートページ (https://www.veritas.com/support/) からベリタスアカウントを作成し、クレデンシャル (ユーザー ID とパスワード) を共有します。 ■ パートナーと連携して次のように操作します。 パートナーが Usage Insights を使用して表示するための VEMS アカウントを識別します。 ■ VEMS アカウントを識別したら、次のように操作します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ VEMS にログインします。 メモ: 表示アクセス権限をパートナーに付与するために管理者権限を持っている必要があります。 ■ メインメニューで[資格 (Entitlements)]をクリックしてすべての資格を表示し、[アカウント (Accounts)]列を確認してパートナーが表示するアカウントを識別します。 ■ メインメニューから、歯車アイコンをクリックし、[ユーザーの管理 (Manage Users)]ページで[ユーザーの追加 (Add User)]をクリックします。 ■ パートナーの情報を追加し、各 VEMS アカウントにパートナーのアクセス権限を設定します。管理者、ライセンスキーの生成、ソフトウェアのダウンロードまたは表示の各権限を使用できます。 メモ: パートナーには適切なアクセス権限を付与してください。表示オプションによって、パートナーは Usage Insights のデータを表示できるようになります。 <p>詳しくは、https://www.veritas.com/support/en_US/article.100040083 の VEMS ユーザーガイドを参照してください。</p>
評価版または概念実証 (POC) の登録キーはどのように取得できますか	登録キーを見つけれない場合、または評価版または POC の新しい登録キーが必要な場合は、営業チームにお問い合わせください。

質問	回答
<p>マスターサーバーの使用状況を Usage Insights で追跡するアカウントを変更するにはどうすればよいですか</p>	<p>次の手順を使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> Usage Insights で、[登録キー (Registration keys)] タブに移動し、[集計キーをダウンロードする (Download aggregate key)] をクリックするか、各アカウント番号の横にあるダウンロードアイコンをクリックして、登録キーをダウンロードします。 次のパスにある既存の登録キーを新しい登録キーに置き換えます。 <pre><install dir>/var/global/customer_registration/veritas_customer_registration_key.json</pre> <p>メモ: 集計キーをダウンロードした場合は、NetBackup Web UI にログインするときに適切なアカウントを選択する必要があります。</p>
Usage Insights の設定	
<p>ドメインのアップグレード中に登録キーが必要になったときに Veritas アカウントがわからない場合、ベリタスのテクニカルサポートからどのような支援を受けられますか</p>	<p>テクニカルサポートは、Usage Insights にできるだけ多くのお客様が適合するように可能な限りサポートします。お客様の NetBackup 環境が機能するように、あらゆる関連情報とキーを提供します。ただし、正確な情報を取得するためには、お客様が実際のキーをマスターサーバーに接続する必要があります。</p>
<p>新しいバックアップ管理者の場合、すべてのカスタム登録キーを再度ダウンロードする必要がありますか</p>	<p>いいえ。管理者によって VEMS 内のアカウントを表示する権限が付与されたら、Usage Insights にサインインできます。ビューに、以前の管理者に対して表示されたのと同じ使用状況と資格情報が自動的に配置されるはずですが。</p>
<p>Veritas Account Manager のクレデンシャルを持っている人物が組織を離れた場合、Usage Insights プロセスはどのような影響を受けますか</p>	<p>お客様の組織は、更新されたクレデンシャルとアクセス権限のために、お客様の新しい連絡先情報を VAM システムおよび VEMS システムに提供する必要があります。</p>
<p>NetBackup の設定でネットワークが停止した場合、NetBackup と Usage Insights が管理するポータルでどのようなデータの差が生まれますか</p>	<p>使用状況データの自動アップロードが試行されますが、失敗した場合、データはアップロードされません。このような場合は、使用状況データを手動でアップロードできます。</p>
<p>nbdeployutil 構成ファイルはカタログと一緒にバックアップされますか</p>	<p>はい。nbdeployutil 構成ファイル (nbdeployutilconfig.txt) はカタログバックアップと一緒にバックアップされます。</p>
<p>ディザスタリカバリシナリオでは登録キーはどのような影響を受けますか。カタログバックアップまたは DR パッケージに顧客 ID ファイルは含まれますか</p>	<p>キーファイルは DR パッケージには含まれません。基本ライセンスキーと同様に、インストール時に再適用する必要があります。</p>
使用状況レポート	

質問	回答
Usage Insights は、nbdeployutil ツールを使ったレポートの生成後に、手動で解決する必要があった重複や不正確なデータをどのように解決しますか	<p>NetBackup 8.1.2 以降での重複削減と精度の改善によって、重複データの問題は解決されます。</p> <p>重複と正確性は、すべての主要な従来の作業負荷 (Oracle、ファイルシステム、SQL、Exchange、VMware、および NDMP) と、新しい作業負荷 (並列ストリームフレームワーク) 全体で改善されています。</p>
Usage Insights の使用と並行して、nbdeployutil ツールを手動で実行したりスケジュール設定して、使用状況データの収集や報告を行えますか	はい。
自動データ収集の構成後、または使用状況ファイルを手動でアップロードした後に、Usage Insights に使用状況の日付が表示されない場合はどうしたらいいですか	nbdeployutil の実行がスケジュール設定されていることを確認します。これは Usage Insights で使用される使用状況データを生成するツールです。
nbdeployutil を実行するタイミングはどのような方法でスケジュール設定できますか	<p>nbdeployutil の頻度は日数で調整できます。FREQUENCY_IN_DAYS 設定に基づいて午前 0 時より後に実行されます。</p> <p>デフォルトでは、データは nbdeployutil によって 7 日ごとに Usage Insights に送信されます。この頻度は、nbdeployutil 構成によっても変わります。</p> <p>容量ライセンスの場合、設定は nbdeployutilconfig.txt ファイルの [NBDEPLOYUTIL_INCREMENTAL] セクションにあります。</p> <p>従来のライセンス (最新の 8.1.2 nbdeployutil EEB がインストールされていない場合は 8.2 以降) の場合、設定は nbdeployutilconfig.txt ファイルの [NBDEPLOYUTIL_INCREMENTAL_TRADITIONAL] セクションにあります。</p> <p>NEVC ライセンス (最新の 8.1.2 nbdeployutil EEB がインストールされていない場合は 8.2 以降) の場合、設定は nbdeployutilconfig.txt ファイルの [NBDEPLOYUTIL_INCREMENTAL_NEVC] セクションにあります。</p> <p>nbdeployutilconfig.txt ファイルは次の場所にあります。</p> <p>UNIX および Linux の場合: /usr/opensv/var/global/</p> <p>Windows の場合: install_path\Veritas\NetBackup\var\global\</p>
データを伝送するタイミングはどのような方法でスケジュール設定できますか	データのアップロードは FREQUENCY_IN_DAYS 値でのみ制御できます。遠隔測定スケジュールは 15 分ごとに起動し、UsageData_Sanitized.out ファイルが存在するときに伝送されます。

質問	回答
nbdeployutil を実行する頻度を変更できますか	はい。次のコマンドを使用して、nbdeployutil を実行する頻度を変更できます。 UNIX の場合 <pre>nbdeployutil.exe --capacity --incremental --report --inc-settings "Install_Dir¥netbackup¥var¥global¥nbdeployutilconfig.txt" --hoursago <custom-time-interval></pre> Windows の場合 <pre>nbdeployutil.exe --capacity --incremental --report --inc-settings "/usr/opencv/var/global/nbdeployutilconfig.txt" --hoursago <custom-time-interval></pre>
nbdeployutil が正しく実行され、想定どおりにすべてのデータが伝送されたことは、どのように確認できますか	NetBackup ユーザーインターフェースでは、データが伝送されなかった場合に通知されます。さらに、 Usage Insights にログインし、伝送されたファイルを確認できます。 Usage Insights で、[ライセンス使用率ファイル (License utilization files)]を選択し、[容量使用率ファイル (Capacity utilization files)]テーブルの情報を確認します。このテーブルに、アップロードされたファイルと、アップロードされたときの詳細が示されます。 <code>upload-nb-usagereporting.json</code> ファイルを調べることもできます。このファイルには、成功または失敗した最新のアップロードやその他の情報が示されます。このファイルは次の場所にあります。 UNIX および Linux の場合: <code>/usr/opencv/var/global/telemetry/status/</code> Windows の場合: <code>install_path¥Veritas¥NetBackup¥var¥global¥telemetry¥status¥</code>
マスターサーバーが廃止された場合、Usage Insights に自動的に表示されなくなりますか	はい。サーバーは、廃止から 3 カ月経過すると、 Usage Insights ダッシュボードの概略セクションに表示されなくなります。 廃止されたサーバーとその使用状況は、引き続き[アカウント (Accounts)]>[マスターサーバー (Master Servers)]ページで確認できます。マスターの状態は、3 カ月後に自動的に非アクティブになります。
ポータルで使用状況のレポート用に設定したマスターサーバーが廃止された場合、どうなりますか	使用状況レポートの履歴データは Usage Insights ポータルで使用できますが、廃止後は、ポータルは新しいデータを受信しなくなります。
nbdeployutil レポートを Usage Insights 用にルーティングするための特別な IP アドレスはありますか	NetBackup の遠隔測定と Usage Insights のデータはどちらも https://telemetry.veritas.com を使用するため、この URL にポートを開く必要があります。デフォルトでは、HTTPS トラフィックは 443 番ポートを使用します。

質問	回答
Usage Insights 用にすべてが正しく設定されているかどうかをどのように確認できますか	使用状況データが Usage Insights に入るとわかります。デフォルトでは、NetBackup は 443 番ポートを使用します。
使用状況データが NetBackup Web ユーザーインターフェースまたは Usage Insights で報告または更新されないのはなぜですか	考えられるいずれかの原因については、次の記事を参照してください。 https://www.veritas.com/support/en_US/article.100044028.html
nbdeployutil コマンドは、情報を保存するための PURGE_INTERVAL 値を使用して構成できます。Usage Insights ポータルでは、90 日間よりも長い期間について報告できますか。 nbdeployutil の PURGE_INTERVAL を 365 日に設定した場合、Usage Insights ポータルには 365 日間分に相当するデータが表示されますか。	nbdeployutil のバージ間隔と Usage Insights には一切関係がありません。 nbdeployutil のバージ間隔は、マスターサーバーのローカルで生成されるレポートファイル (.xls) にのみ関係します。
自動化された nbdeployutil によるレポート作成の頻度は変更できますか	はい、できます。 デフォルト (90 日間) 以外の間隔でレポートを作成できます。次のコマンドを実行します。 Windows の場合: <pre>nbdeployutil.exe --capacity --incremental --report --inc-settings "install_dir¥netbackup¥var¥global¥nbdeployutilconfig.txt" --hoursago <custom-time-interval></pre> UNIX の場合: <pre>nbdeployutil.exe --capacity --incremental --report --inc-settings "/usr/opensv/var/global/nbdeployutilconfig.txt" --hoursago <custom-time-interval></pre> --hoursago で指定する時間数は、nbdeployutilconfig.txt ファイルで指定している purge-interval 未満である必要があります。 メモ: nbdeployutil は収集データを使ってカスタムの間隔のレポートを生成します。--gather オプションを使う必要はありません。
Usage Insights で NEVC ソケット関連の情報が受信されないのはなぜですか	ソケット関連の情報が受信されない場合は、バックアップホストで NetBackup 8.2 以降を使用していることを確認します。

質問	回答
8.2以降で容量ライセンスの使用状況レポートの傾向が変わったのはなぜですか	<p>nbdeployutil では、NEVC (NetBackup Enterprise Virtual Client) ライセンス形式について bpsetconfig を使用してフラグを設定すると、Usage Insights では容量ライセンスの傾向に変化が見られます。</p> <p>NEVC ライセンスが選択されているため、仮想化環境の使用状況に関する情報は FETB/容量ライセンスからは除外され、NEVC ライセンスの対象であるソケット情報に基づいて測定されます。</p>
NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing (8.1.2 以降)	
どの容量ライセンス形式の使用状況が NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing に変換されますか	<p>次の条件を満たすと、NetBackup Platform Base Complete Edition ライセンスの使用状況は変換されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 8.1.2 以降を使用している。 ■ 2019年4月14日より後に、新たに NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing を購入した。 ■ 少なくとも 90 日ごとにデータを Usage Insights に送信している。 Usage Insights の機能と予測モデルを最大限に活用するため、30 日ごとにデータを送信することをお勧めします。
nbdeployutil は実行され、Base Complete Edition with Flexible Licensing のレポートを作成していますか	nbdeployutil は実行されることも、Base Complete Edition with Flexible Licensing のレポートや json ファイルを作成することはありません。NetBackup は NetBackup Platform Base Complete Edition の使用状況の情報を Usage Insights に送信します。
Usage Insights はどのように NetBackup Platform Base Complete Edition の使用状況の情報を分析しますか	<p>Usage Insights は VEMS (Veritas Entitlement Management System) ポータルに接続してアカウントの詳細を取得します。</p> <p>Usage Insights は、マスターサーバーのバージョン、および NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing を購入したかどうかに関する情報を取得します。この情報に基づき、Usage Insights は、Complete Edition の使用状況を Base Complete Edition with Flexible Licensing の使用状況に変換します。</p>

質問	回答																									
Usage Insights はどのように NetBackup Platform Base Complete Edition with Flexible Licensing の使用状況を変換しますか	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">Flex 資格 = 500 TB</th> </tr> <tr> <th></th> <th>変換比率</th> <th>割り当て</th> <th>割り当てごとの効果的な使用量</th> <th>Base Complete Edition with Flexible Licensing で実際に可能な使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>物理</td> <td>1:1</td> <td>50%</td> <td>250</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>仮想</td> <td>1.5:1</td> <td>50%</td> <td>250</td> <td>375</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>500</td> <td>625</td> </tr> </tbody> </table>	Flex 資格 = 500 TB						変換比率	割り当て	割り当てごとの効果的な使用量	Base Complete Edition with Flexible Licensing で実際に可能な使用量	物理	1:1	50%	250	250	仮想	1.5:1	50%	250	375	合計			500	625
	Flex 資格 = 500 TB																									
		変換比率	割り当て	割り当てごとの効果的な使用量	Base Complete Edition with Flexible Licensing で実際に可能な使用量																					
	物理	1:1	50%	250	250																					
	仮想	1.5:1	50%	250	375																					
	合計			500	625																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">Flex 資格 = 500 TB</th> </tr> <tr> <th></th> <th>変換比率</th> <th>割り当て</th> <th>割り当てごとの効果的な使用量</th> <th>Base Complete Edition with Flexible Licensing で実際に可能な使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>物理</td> <td>1:1</td> <td>100%</td> <td>500</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>500</td> <td>500</td> </tr> </tbody> </table>	Flex 資格 = 500 TB						変換比率	割り当て	割り当てごとの効果的な使用量	Base Complete Edition with Flexible Licensing で実際に可能な使用量	物理	1:1	100%	500	500	合計			500	500					
	Flex 資格 = 500 TB																									
		変換比率	割り当て	割り当てごとの効果的な使用量	Base Complete Edition with Flexible Licensing で実際に可能な使用量																					
	物理	1:1	100%	500	500																					
合計			500	500																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">Flex 資格 = 500 TB</th> </tr> <tr> <th></th> <th>変換比率</th> <th>割り当て</th> <th>割り当てごとの効果的な使用量</th> <th>Base Complete Edition with Flexible Licensing で実際に可能な使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仮想</td> <td>1.5:1</td> <td>100%</td> <td>500</td> <td>750</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>500</td> <td>750</td> </tr> </tbody> </table>	Flex 資格 = 500 TB						変換比率	割り当て	割り当てごとの効果的な使用量	Base Complete Edition with Flexible Licensing で実際に可能な使用量	仮想	1.5:1	100%	500	750	合計			500	750						
Flex 資格 = 500 TB																										
	変換比率	割り当て	割り当てごとの効果的な使用量	Base Complete Edition with Flexible Licensing で実際に可能な使用量																						
仮想	1.5:1	100%	500	750																						
合計			500	750																						
<p>たとえば、500 TB のデータを購入したとします。500 TB をどのように割り当てるかを考えてください。</p> <p>物理データの場合、実際に使用できるのは 1:1 です。</p> <p>仮想データの場合、実際に使用できるのは 1.5:1 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ すべての物理データ: 500 TB ■ 物理データ: 250 TB、仮想データ: 250 TB 物理データの場合、実際に使用できるのは 250 TB です。 仮想データの場合、実際に使用できるのは、$250 * 1.5 = 375$ TB です。 つまり、250 TB + 375 TB = 625 TB が実際に使用できる量です。 ■ すべての仮想データ: 500 TB $500 * 1.5 = 750$ TB 																										
Usage Insights を使用していない場合、または Usage Insights にデータを送信していない場合でも Flex Licensing のメリットは受けられますか	いいえ。メリットはありません。																									

質問	回答
Flex Licensing の仮想変換に使用できる作業負荷はどれですか	次の作業負荷を使うことができます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ VMware ■ Hyper-V ■ Nutanix-AHV ■ Red Hat Virtualization (RHV) ■ Azure Stack ■ OpenStack
8.1.2 より前の資格を購入済みです。この古い資格が適用される容量についてはどうなりますか	古い資格が適用される容量はそのままとなり、Usage Insights にもそのまま表示され、1:1 の使用比率で資格も使用できます。ただし、Flex Licensing のようなメリットはありません。
Flex Licensing で 1.5 倍の適用を受けするにはどうすればよいですか	Base Complete Edition with Flexible Licensing モデルで 1.5 倍の適用を受けるには、自動 (ポート 443) または手動 (ファイルのアップロード) で毎月データを伝送する必要があります。
仮想データの使用状況レポートについて拡張サポートを受けるにはどうすればよいですか	最新の 8.1.2 nbdeployutil 用の EEB または 8.2 以降のバージョンの nbdeployutil 用の EEB がインストールされている場合は、仮想データの使用状況レポートに関する拡張サポートを受けることができます。新しい EEB を使用する場合、NetBackup クライアントを VMware 仮想マシン内のみインストールし、任意のポリシータイプで保護すると、そのクライアントは仮想の作業負荷と見なされます。 EEB および nbdeployutil の変更点については、次のテクニカルノートを参照してください。 https://www.veritas.com/support/en_US/article.100046832

詳細情報

Usage Insights サービスに関する追加情報について、またはここで説明されていないご質問の回答については、Veritas の営業担当者またはカスタマケアにお問い合わせください。

営業担当者をご不明な場合、Veritas にお問い合わせください。

<https://www.veritas.com/ja/jp/company/contact>

Veritas のパートナーの場合、PartnerNet ポータルを使用できます。

<https://partnet.veritas.com/portal/faces/home>

- 米国のカスタマケア:
 - 1-866-837-4827 または 1-512-813-2376
 - CustomerCare@veritas.com

- https://www.veritas.com/content/support/ja_JP/contact-us.html
- 地域別のカスタマケア
 - <https://www.veritas.com/company/contact>

ベリタスがお客様のプライバシーを管理する方法と GDPR に対する弊社の責任について詳しくは、次のサイトを参照してください。

<https://www.veritas.com/ja/jp/company/privacy/>

Veritas Entitlement Management System について詳しくは、次を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040083

ライセンスの正確性は、お客様の責任です。Veritas はガイダンスとして Usage Insights のデータを提供します。